
十五夜

津軽 あまに

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

十五夜

【Nコード】

N47530

【作者名】

津軽 あまに

【あらすじ】

船乗りと、ラーメン屋の屋台と、酔っ払いの物語。掌編。

「だからなあ。おまえさんあ屋台を引けるのも、俺が木を植えたおかげさあ」

ろれつの回らない声が響く。

屋台は、「港」の裏の路地でその看板代わりのちようちんを光らせていた。

土が剥き出しになった裏路地の木の下。

畳二枚で収まる屋台に椅子は三つ。今日は珍しく、先客がいる。

「よ」

「あ、先輩、いらっしやい！」

勝手知ったる他人の屋台。一番端に腰かけると、後輩が湯気に向かって屈託のない笑顔を見せる。

船乗りを辞めて屋台の道を選ぶと聞いたときには不安もあった。が、この表情を見ればそんなものも吹き飛ぶというものだ。

場所のせいもあってか、俺のようなサラリーマンにだけでなく、船乗りの客も多い。

今でこそ客がまばらだが、船が入港した直後には行列も珍しくないのだ。

「味噌バターに生卵」

「玉落ちですね。毎度っ！」

隣にいた男……俺の親父より年上だろうか……が身を乗り出してきた。安いアルコール臭が鼻をかすめる。

「あんたあ月見ソバかい？」

思わず苦笑がもれる。

よりによってここで「月見」はないだろう。第一これはソバじゃなくてラーメンだ。

こちらの苦笑に気付いてか気付かずか、老人は節くれた手でビールグラスをこちらに差し出してきた。

「十五夜の月見ソバに乾ン杯！」

皺だらけの顔が、笑うとさらに皺くちやになった。

「十五夜……」

付き合いで水入りコップをグラスにぶつけてやる。

「十五夜」。もうしばらく口にしていなかった言葉だ。

「月見か。随分としていないな」

「俺たちには縁のない風流ですからね」

麵の茹で上がりを確認しながら、後輩が苦笑する。

「おれあ毎日してたぞ。子どものころからな」

「そりゃ、御老人の子供の頃はあっちにいたからでしょう」

「おう。そいつを木い植えて植えて、こっち来たんだよ。おいビールも一つ」

「さっきので切れちまったんですが……」

見れば、老人の足元にはおびただしい数の空き缶が転がっている。

「なにい、天下の開拓士さまに出す酒がないってかあ」

すわった目で男がからみはじめる。

「……わかりました。ちょっと待って貰えば買出しに……」

「いい。俺が行く。麵を放つてはおけないだろう？」

「いいんですか？」

「まあ、夜の散歩もいいもんさ」

椅子を引き、俺はゆっくりと伸びをする。

「それに何より……」

そのついでに、ドームの窓に煌々と輝く青い星を見上げ。

「今夜は、地球ホッがよく見える」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4753o/>

十五夜

2010年10月24日03時26分発行